

## 26H-pm04

### 腎機能低下時の薬物療法第2法

○上妻 雅之<sup>1</sup>, 間間 明子<sup>1</sup>, 加藤 剛<sup>1</sup>, 林 昭文<sup>3</sup>, 黒宮 潔<sup>4</sup>, 繁田 知子<sup>2</sup>,  
吉岡 優子<sup>2</sup>, 濱口 祥子<sup>5</sup>(<sup>1</sup>ことぶき薬局, <sup>2</sup>たまち薬局, <sup>3</sup>ひまわり薬局, <sup>4</sup>みかん薬  
局, <sup>5</sup>三島共立病院)

【目的】2007 年第 125 年会（東京）日本薬学会で発表した第一報では、低体重の高齢者では血清クレアチニンが正常範囲内でもクレアチニンクリアランス（以下 Ccr）が低値を示す事例が多く、処方解析の必要性を見直した。2007 年 9 月、日本腎学会より新たな GFR の測定方法が提唱されたので安田式による検査値との比較をした。また、さらに個々の処方薬について腎障害時の投与法の詳細を調査し、調剤時全薬剤師が処方解析できるシステムの構築を試みたところ、若干のプレアポイド事例がみられたのでこれを報告する。

### 【まとめと考察】

- ①MDRD 簡易式 eGFR と安田式 Ccr を比較した所、正常 Cr では 10～20eGFR ほど高く算出された。改めて、今までの Ccr 値を換算しなおす必要がある。
- ②添付文書上、腎障害時禁忌・慎重投与の記載のある薬品が 112 品目あり現在調査終了した 40 品目中では、減量が必要な薬剤 14 品目、直ちには減量が必要ないが慎重に経過を見る薬剤 11 品目、減量など必要ない薬剤 15 品目で添付文書上の腎障害時の禁忌・慎重投与の記載は、根拠となる資料がない場合や実際の投与量の指標を明示していないものも多く、改善が望まれる。
- ③プレアポイド事例は 68 例となり薬剤師が腎機能を把握した上で処方解析することは、有効安全な薬物療法上非常に重要と考える。更におくすり手帳を介しての医療機関との連携を強化し、顔の見える薬剤師活動を発展させていきたい。